

ネパール政治ニュース（16年10月）ヘッドライン

政 治	
内政	<p>(1) 3日、UML中央委員会は、ネパール政府に憲法に定められた期限内に、選挙を行うように圧力をかけるため、4ヶ月にわたる選挙運動を開始することを発表した。</p> <p>(2) 3日、立法議会の聴聞委員会は、ディーブ・クマル・ウパダエ（前駐インド大使）を駐インド大使に、リラ・マニ・ポウデル（前主席次官）を駐中国大使にそれぞれ任命することを承認した。</p> <p>(3) 4日、ダハール首相は、マデシ系政党のリーダーと会談し、ティハール祭（10月30日）までに、憲法改正案を議会に提出することを約束した。</p> <p>(4) 18日、ティハール祭までに憲法改正案を提出すると約束したにも関わらず、ネパール政府内で真剣な議論が行われていないとして、マデシ系政党は政府を批判した。</p> <p>(5) 18日、政権与党は、ダハール内閣の閣僚数を40人にすることに決定した。なお、オリ内閣の閣僚数は41人、バッタライ内閣では49人であった。</p> <p>(6) 20日、ロクマン・シン・カルキ権力乱用調査委員会委員長に対する弾劾動議が立法議会にて登録され、同委員長は一時停職となった。</p>
外交	<p>(1) 4日、ネパール政府関係者は、ムカジー・インド大統領が11月2日からネパールを訪問する旨述べた。</p> <p>(2) 5日、ランジット・ラエ・インド大使は、ネパール・インド間でハイレベルの往来が続いており、両国関係は新たな高みに達していると述べた。ラエ大使は、来月予定されているムカジー大統領のネパール訪問は、両国関係のマイルストーンになると述べた。</p> <p>(3) 7日、呉春太中国大使が、ダハール首相を表敬し、離任の挨拶を行った。次期中国大使には于紅氏が任命されることが決まっている。</p> <p>(4) 15日、インドのゴアでのBRICS-BIMSTECアウトリーチ首脳会合に参加したダハール首相は、習近平国家主席と二国間会談を行った。</p> <p>(5) 15日、ネパール各紙は、上記首脳会合に参加したダハール首相は、モディ首相及び習近平国家主席と三者会談を行った旨報じた。</p> <p>(6) 18日、ナラヤン・カジ・シュレスタ・マオイストセンター副党首は、ダハール首相が提案した三国間協力に、インドと中国が合意したと同首相が公表したことに対し、実体を伴わない行為であると、同首相を批判した。</p> <p>(7) 18日、中国外交部は、上記会合にて三国間協力について話し合いが行われたか、否定も肯定もしていないが、三国間の建設的な関係は、</p>

	社会・経済発展のみならず、地域の安定と発展につながると発言した。
--	----------------------------------